



▲登場したサンタクロースとたがたんに子どもたちは大喜び

サンタさんから一足早いプレゼント

絵本の森クリスマス会

12月15日、市立図書館で絵本の森クリスマス会が開催され、親子連れなど約120人が参加しました。尾垣教育長と大原一義図書館長のギター演奏による「赤鼻のトナカイ」などのクリスマス曲をみんなで合唱後、読み聞かせボランティアの八代範夫さんや末廣容子さん、読み聞かせグループ「あしたばの会」のみなさんが、クリスマスにちなんだ大型絵本や紙芝居などを披露。最後は、サンタクロースと一緒にたがたんも登場し、プレゼントを受け取った子どもたちは、笑顔でたがたんと一緒に写真を撮っていました。初めて参加した三浦もえみちゃん（6歳）は「プレゼントをもらえてうれしい。たがたんがかわいかった」と話しました。

炭坑文化の継承に貢献

福岡県文化賞「社会部門」を受賞

12月13日、福岡県立大学生涯福祉研究センターと山本作兵衛さんを「読む>会」の関係者が市役所を訪れ、第20回福岡県文化賞「社会部門」を受賞したことを報告しました。<読む>会は、作兵衛氏の日記類を通して「炭坑の歴史を後世に伝えていこう」と平成14年に結成され、同研究センターと共同で日記類を解説し、毎年資料集を編集しています。また、平成24年5月には発足10周年を記念した「十年のあゆみ」を発刊しました。<読む>会の野村喜七郎会長は「今回の受賞は、これまでの活動にご褒美をいただいた気持ちです。これからも炭坑文化を次世代へ継承するため、一層頑張ります」と話しました。



▲喜びと同時に責任感が膨らみます(右上は「十年のあゆみ」)

川面に映る幻想的な光

川を愛でる灯火の夕べ

12月23日～25日の3日間、彦山川ばんだごうら河川敷（新橋～番田橋）に今年も高さ55メートルと40メートルの巨大イルミネーションツリー5基がお目見えしました。このイベントは、河川美化の啓発などを目的に、ボランティア団体の「ひこさんがわ夢の会」が主催し、毎年クリスマスの時期に開催されているもの。今年も家族連れなどでにぎわい、訪れた人たちは、川面に映るイルミネーションツリーの幻想的な光の世界を楽しんでいました。親子で訪れた黒木美佐さん（伊加利）は「とてもきれいで子どもも喜んでいました。イルミネーションの数を増やして、有名な観光スポットにしてほしいです」と話しました。



▲川面に設置された5基のクリスマスイルミネーションツリー

たくさんの金メダルを獲得

麻生勝弥さんが優勝報告

12月13日、麻生勝弥さん（86歳、奈良）が、平成24年に出場した、国内外さまざまな地域で行われた陸上競技大会での結果を報告するため、市役所を訪れました。麻生さんは、11月に行われた第17回アジアマスターズ陸上競技選手権大会での砲丸投げ、円盤投げ、ハンマー投げで優勝するなど、この1年間で25回優勝。これまで獲得したメダルは約700個を超えています。平日は毎日2時間こがねが丘陸上競技場で黙々と練習に打ち込み、昨年の4月からは母校の田川高校で指導も行っています。麻生さんは「無理せず、マイペースで100歳まで現役でがんばることが目標です」と力強く話しました。



▲今年獲得したメダルを手に胸を張る麻生さん

高齢者福祉の充実に

福波歌謡教室が収益の一部を寄付

12月26日、福波歌謡教室の講師である福波節子さんら関係者が市役所を訪れ、11月25日に田川文化センターで開催された「福波歌謡教室20周年記念チャリティー歌謡祭」の収益金の一部を寄付しました。高齢者の生きがいづくりの一助になればと始められた福波歌謡教室には、91歳の生徒がなんと2人も在籍しています。生徒たちは、週に1回福波さんの指導の下練習に励み、年に1回開催されている発表会では、その練習の成果をいかに発揮。今回は90人が自慢の歌声を披露しました。講師の福波さんは「高齢者福祉の充実に活用していただけたらうれしいです」と笑顔で話しました。



▲寄付金を手渡す福波さん(左)と生徒代表の博田健治郎さん(中)

4団体に支援金を寄贈

国際ソロプチミスト田川

12月14日、国際ソロプチミスト田川（宇佐見和江会長）が社会奉仕事業の一環として、障害者支援施設「寺小屋作業所ほのぼのの家」、伊加利人形芝居保存会、福岡県立大学地域支援センター、市立図書館の4団体に支援金を寄贈しました。市役所で行われた寄贈式では、各団体の代表者たちが宇佐見会長から支援金を受け取り、その後、各団体の代表者から感謝の意が述べられました。尾垣有三教育長は「図書館の本の充実に向け、これからも努力していきます」と述べ、宇佐見会長は「この活動で地域に貢献できればうれしい。有意義に活用してください」と話しました。



▲尾垣教育長に支援金を手渡す宇佐見会長(右)